

# 決算説明会

2009年3月期第1四半期

2008年7月31日

ミネベア株式会社



# 1Q連結業績ハイライト

・為替の悪影響、原材料高などにより減収減益

(百万円)	2008年3月期		2009年3月期	前年同期比	前四半期比
	1Q	4Q	1Q	伸び率	伸び率
売上高	81,766	81,042	74,041	-9.4%	-8.6%
営業利益	7,115	7,286	5,083	-28.6%	-30.2%
経常利益	6,252	6,999	4,685	-25.1%	-33.1%
税引前利益	5,476	6,055	4,057	-25.9%	-33.0%
四半期純利益	3,133	3,775	2,635	-15.9%	-30.2%
一株当たり 四半期純利益(円)	7.85	9.46	6.60	-15.9%	-30.2%

為替レート	08/3期1Q	08/3期4Q	09/3期1Q	備考
US\$	119.85円	108.44円	103.36円	( )内はタイ中央銀行発表オンショア・レート。 タイの短期資本流入規制は、2008年3月に撤廃されたため、これ以後、オンショア・レートとオフショア・レートとの大きな乖離は存在しなくなりました。
ユーロ	161.22円	161.16円	161.48円	
タイバーツ	3.70円 (3.44円)	3.60円 (3.29円)	3.24円	
人民元	15.55円	15.06円	14.72円	

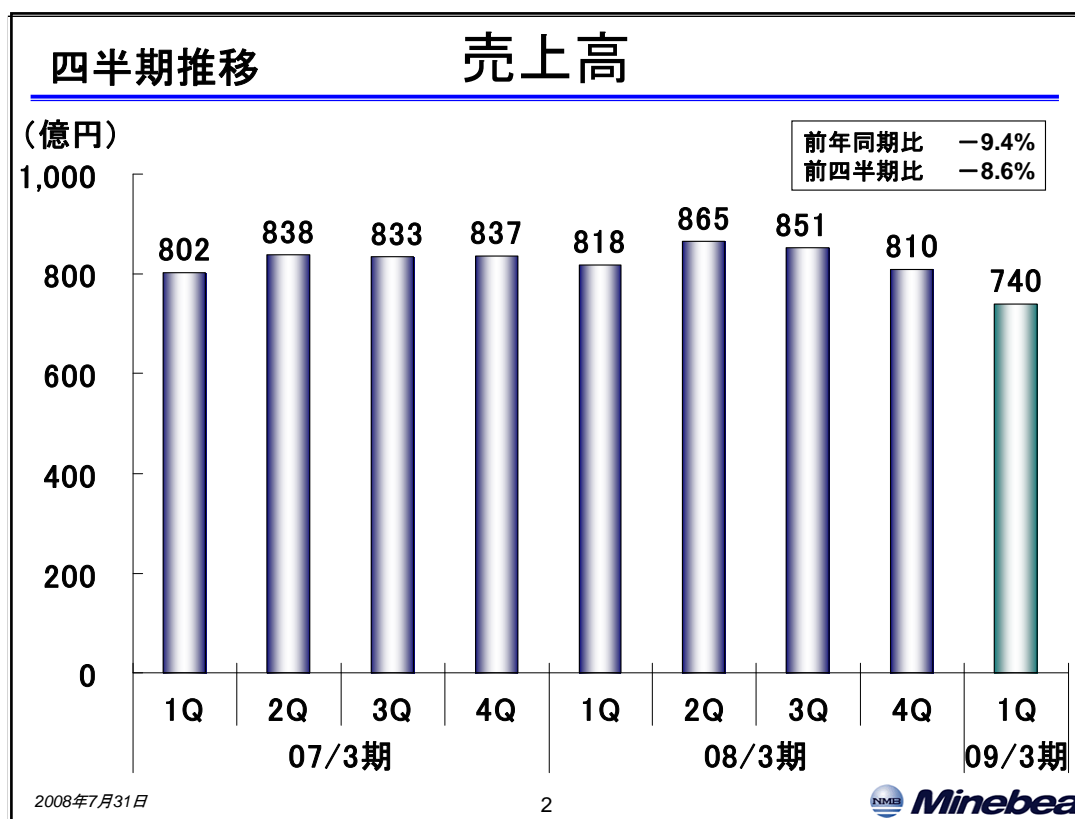
2008年7月31日

1



2009年3月期第1四半期の連結業績は、売上高740億4,100万円、営業利益50億8,300万円、四半期純利益26億3,500万円となりました。

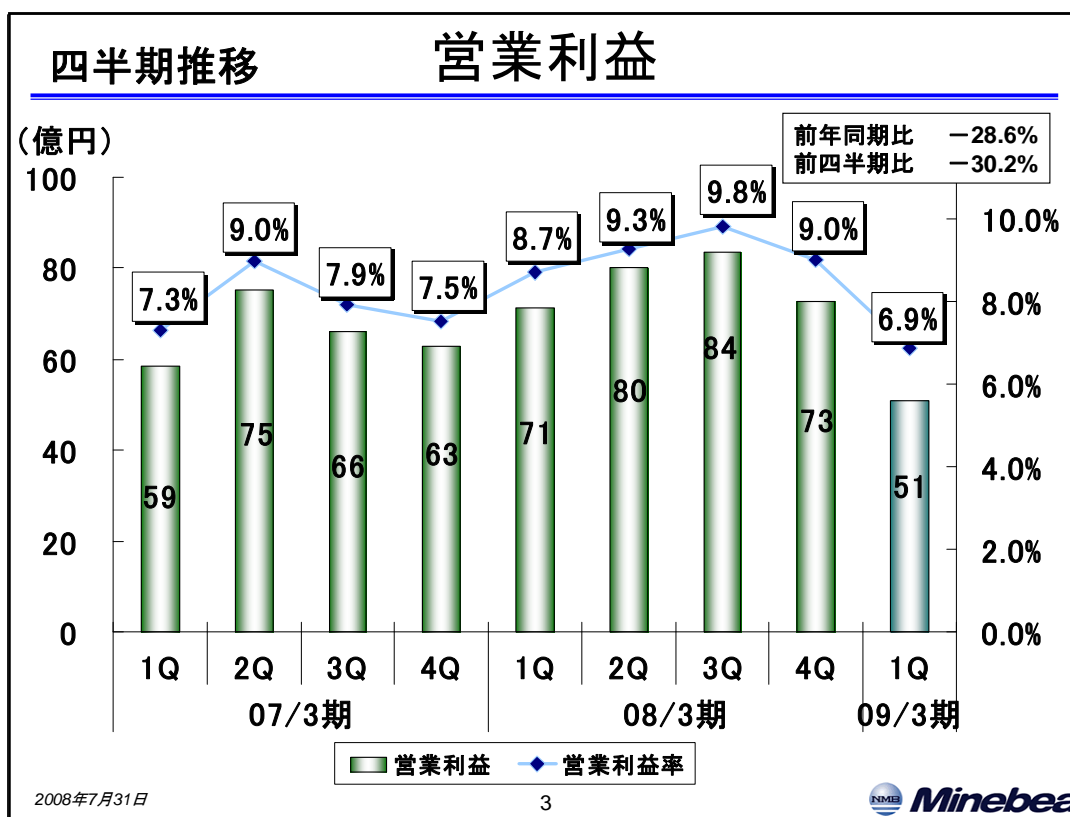
前年同期に比べ、為替がUS\$安になったことに加え、原材料の高騰があり、売上高は9.4%の減少、営業利益も28.6%減少しました。四半期純利益は15.9%の減少となりました。



当第1四半期の売上高は、為替がUS\$安になったことが大きく影響し、前期第4四半期比で8.6%減の740億円となりました。

製品では主に、HDD市場の在庫調整によるHDDスピンドルモーター、ピボットアッセンブリーの販売減少がありました。

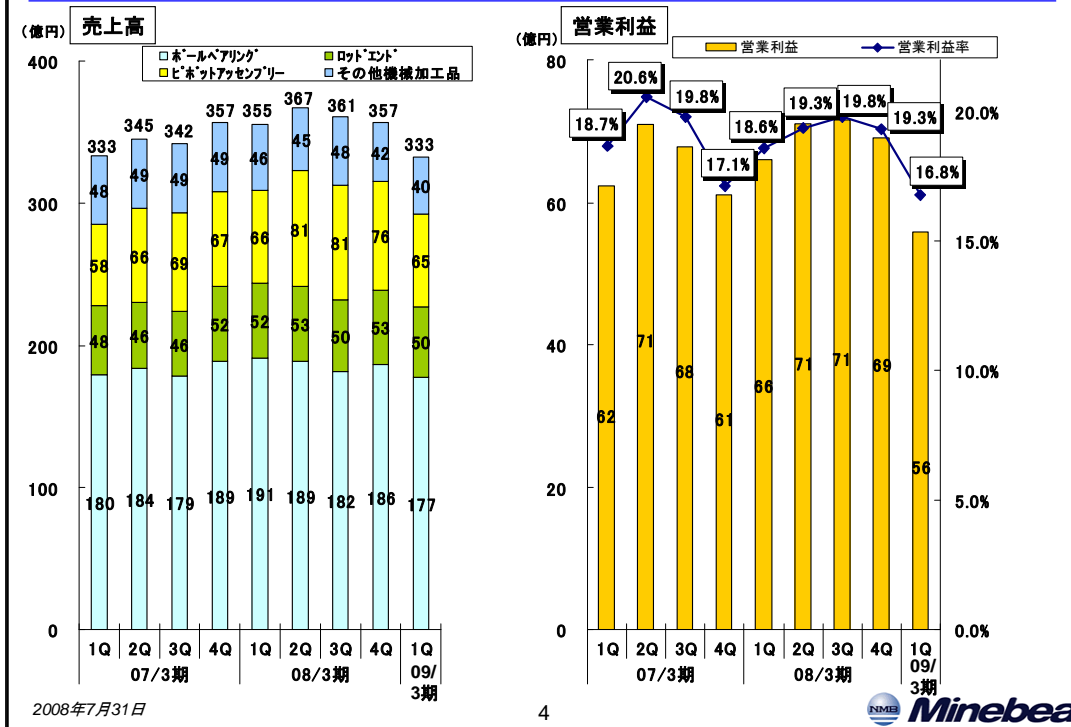
売上へのUS\$安等の為替影響は、前期第4四半期比でマイナス31億円の影響、前年同期比でマイナス75億円の影響となりました。



当第1四半期の営業利益は、前期第4四半期比で30.2%減の51億円となりました。営業利益率も2.1ポイント低下の6.9%となりました。

HDD市場の在庫調整の影響や人件費など工場経費の上昇に対してコスト削減が追いつかなかったことに加え、US\$安を中心とした為替の変動がありました。為替変動の影響は、弊社の試算では、営業利益ベースで前期第4四半期比約4億円のマイナスの影響、前年同期比でも約8億円のマイナスの影響が出ています。

## セグメント別四半期推移 機械加工品事業



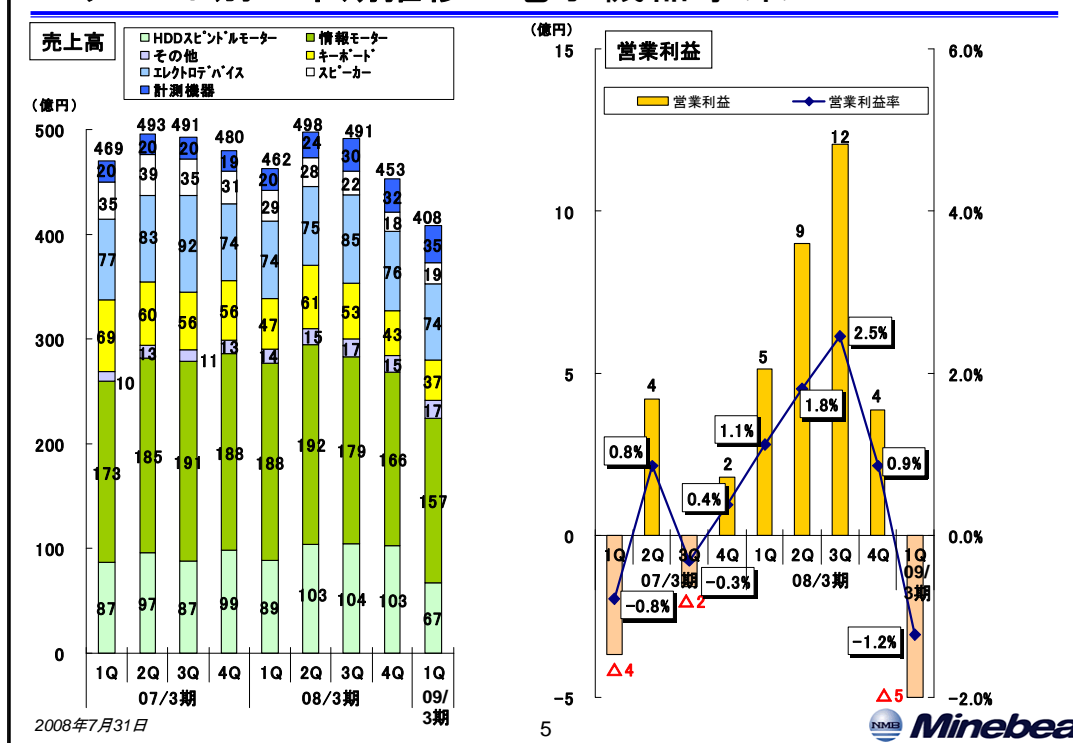
当第1四半期の売上高は、前期第4四半期に比べて24億円6.9%減少の333億円となりました。US\$安による売上の減少が大きく影響しました。営業利益でも、US\$安パーツ高などの影響があり、前期第4四半期に比べて13億円19.1%減少の56億円となり、営業利益率も2.5ポイント低下の16.8%となりました。

製品別では、ミニチュア・小径ボールベアリングにつきましては、売上高は前年同期比7.1%の減少、前期第4四半期比では4.6%の減少となりましたが、これはUS\$安による影響を大きく受けたことによるものです。外部販売は前期第4四半期比で月200万個増加し、第2四半期以降も販売数量は堅調に推移するものと見込んでいます。利益面でも前期第4四半期に比べ、US\$安パーツ高による影響があり、利益が減少しました。今後は、今まで以上のコスト削減を推し進めます。また外部環境では、原材料高騰による影響が見込まれますが、生産性向上で吸収しきれない分については価格の修正を実施していきます。

ロッドエンド&スフェリカル・ベアリングにおいては、航空機市場は引き続き好調なものの、円高US\$安の為替影響があり、売上高は前年同期比4.7%の減少、前期第4四半期比では5.9%の減少となりました。今後も好調な航空機生産を受けた旺盛な需要に確実に応えるべく、生産能力の増大に努めるとともに、航空機メーカーの新規モデルへの受注活動を積極的に進めていきます。利益面では、前期第4四半期に比べ、原材料費の高騰やUS\$安円高の影響により減少しました。今後は原材料費高騰分の価格転嫁も図っていきます。

HDDに使用されるピボットアッセンブリーにつきましては、売上高は前年同期比0.5%の減少、前期第4四半期比では13.9%の減少となりました。HDD市場における在庫調整を受け、ピボットアッセンブリーの販売数量は月2,600万個と前期第4四半期比で月100万個以上減少し、US\$安による売上減少もありました。第2四半期以降については、在庫調整が終了し、需要期に向け販売数量は増加すると見込んでおります。利益面では、US\$安パーツ高による売上減少の影響により大きく減少しました。今後は、原材料高騰の影響が見込まれるため、早急に価格転嫁を行っていきます。

## セグメント別四半期推移 電子機器事業



US\$安の影響や前期第4四半期に事業終了したMOD、FDDヘッド分の売上減少、HDD市場の在庫調整によるHDDスピンドルモーターの販売減少があり、当第1四半期の売上高は前期第4四半期に比べて45億円減少となりました。営業利益では、5億円の赤字となり、営業利益率もマイナス1.2%となりました。

製品別では、HDDスピンドルモーターの売上高は、前年同期比24.4%の減少、前期第4四半期比34.4%の減少となりました。HDD市場の在庫調整があり、第1四半期販売数量は前期第4四半期比で月190万台減少し、月390万台となりました。しかし、2.5インチ向けは新規客先を獲得したこともあり、月120万台と月20万台増加させることができました。利益面では、歩留まり向上、コスト削減に努めたものの、販売数量及び生産数量の大幅減少やUS\$安パーツ高の影響が大きく響き、前期第4四半期に比べ赤字が拡大しました。引き続き、第2四半期での月次黒字化を目標に、収支改善に取り組んでいきます。

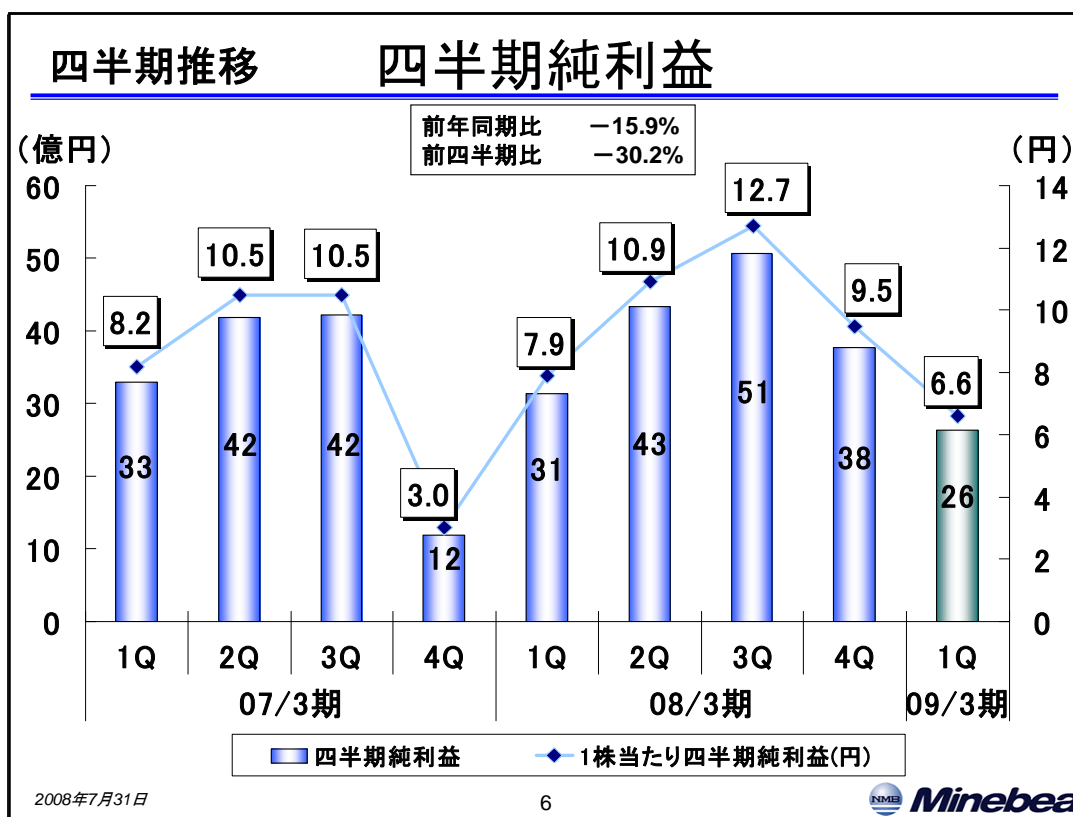
情報モーターは、US\$安パーツ高・人民元高の影響が大きく、製品ミックスの悪化もあり、売上高は、前年同期比16.2%の減少、前期第4四半期比5.1%の減少となりました。利益面では、引き続きコスト削減に努めたものの、売上の減少と競争激化により前年同期比、前期第4四半期比とも大きく利益が減少しました。製品ミックスの改善、コスト削減を更に進め、収益の改善を図ります。

キーボードの売上高は、前年同期比20.9%の減少、前期第4四半期比12.7%の減少となりました。前年同期比においては、汎用品の売上が前期に残っていた影響もあり減少しました。前期第4四半期比では、販売数量の減少に加え、US\$安人民元高が進んだことが影響し、利益面でも若干の赤字となりました。今後は、クリスマス商戦に向けて販売が回復するものと見込んでいます。

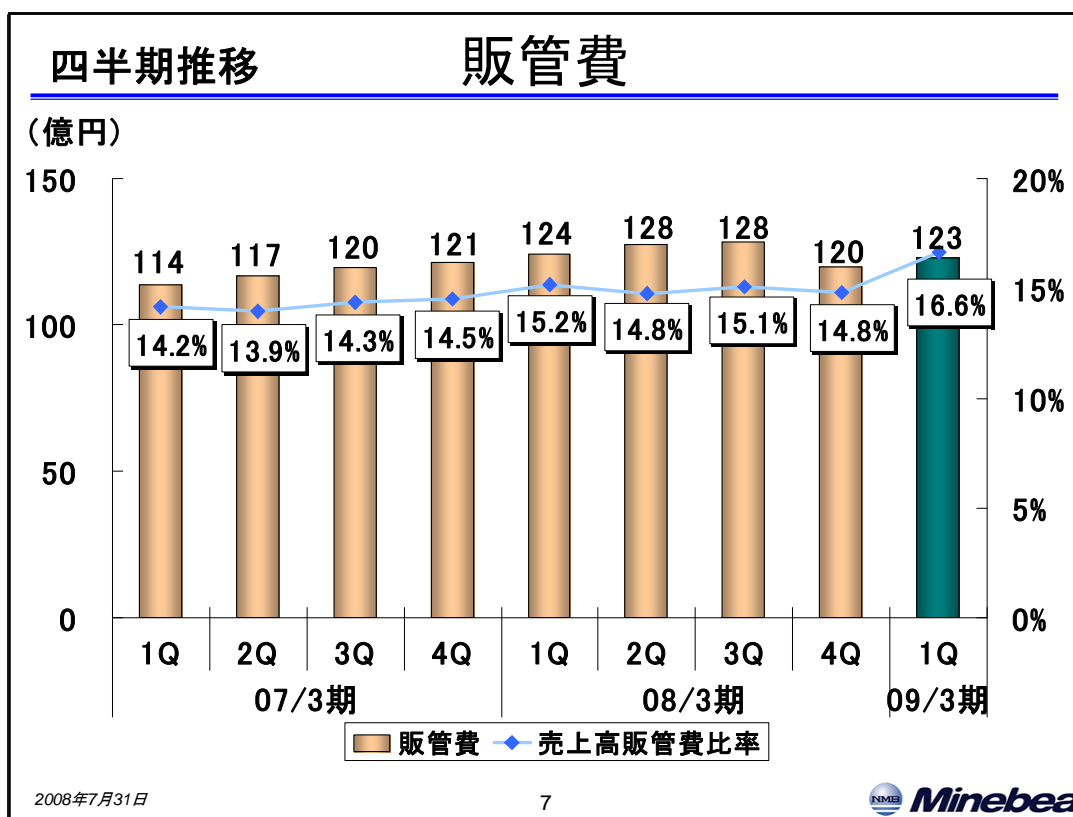
エレクトロデバイスは、売上高が前年同期比1.2%の減少、前期第4四半期比3.4%の減少となりました。LEDバックライトは、LEDなしのバックライトを中心に数量が伸び売上は順調に増加しました。MOD、FDDヘッドは、前期第4四半期に事業終了したため、当第1四半期ではこの分の売上が減少しました。大型液晶TV向けインバーターは、昨年以降販売数量を伸ばしてきましたが、今後は顧客の在庫調整の影響が見込まれます。利益面では、前期第4四半期に比べ、ほぼ変わらずでした。今後とも新製品の開発、新市場への進出を推し進め、収益の改善を図ります。

スピーカーの売上高は、前年同期比33.3%の減少、前期第4四半期比6.6%の増加となりました。タイから中国に外注への生産移管中であり、利益面で赤字が残りました。

計測機器の売上高は、前年同期比74%の増加、前期第4四半期比11.2%の増加となりました。これは、為替変動による減少要因はあったものの、新アプリケーション向け製品販売が増加していることが主な要因です。利益も前期第4四半期に比べ増加しました。



当第1四半期は、当期純利益が前期第4四半期に比べて12億円15.9%減少の26億円、一株当たり四半期純利益は前期第4四半期比2.9円減少の6.6円となりました。これは、支払利息や法人税の減少があったものの、営業利益の減少、確定拠出型年金移行に伴う特別損失約4億円などが発生したことによるものです。

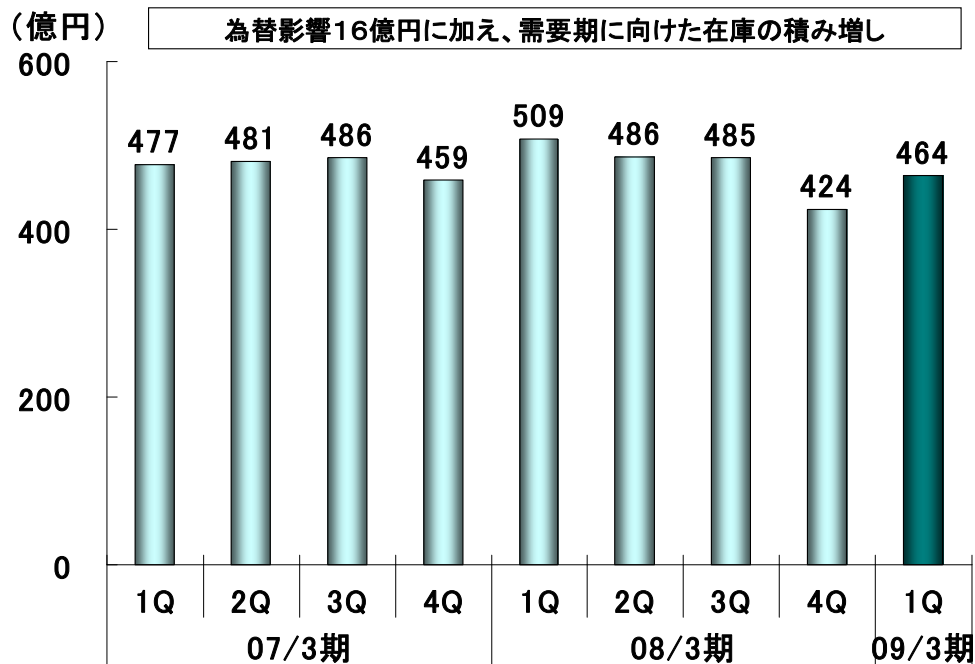


当第1四半期は、前期第4四半期と比べて3億円増加の123億円となりました。  
引き続き、販管費および経費の抑制に努めてきましたが、売上高の減少に伴い、売上高販管比率は1.8%増の16.6%となりました。

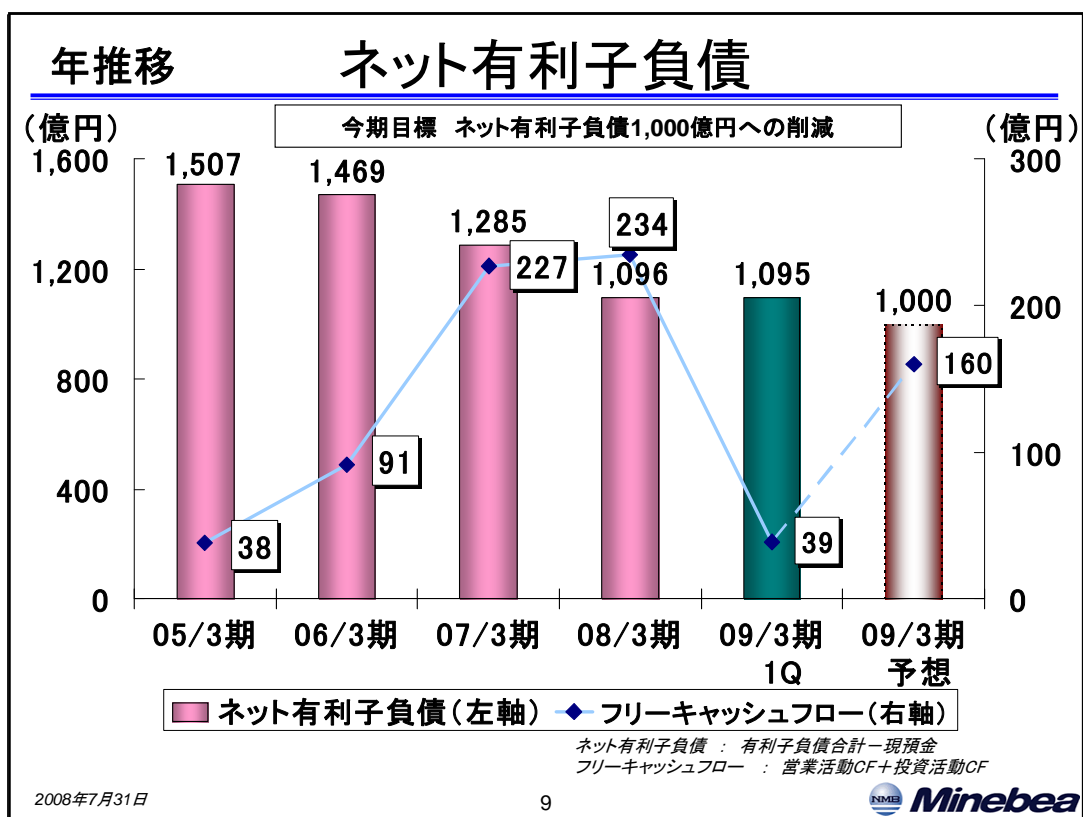


## 四半期推移

## たな卸資産



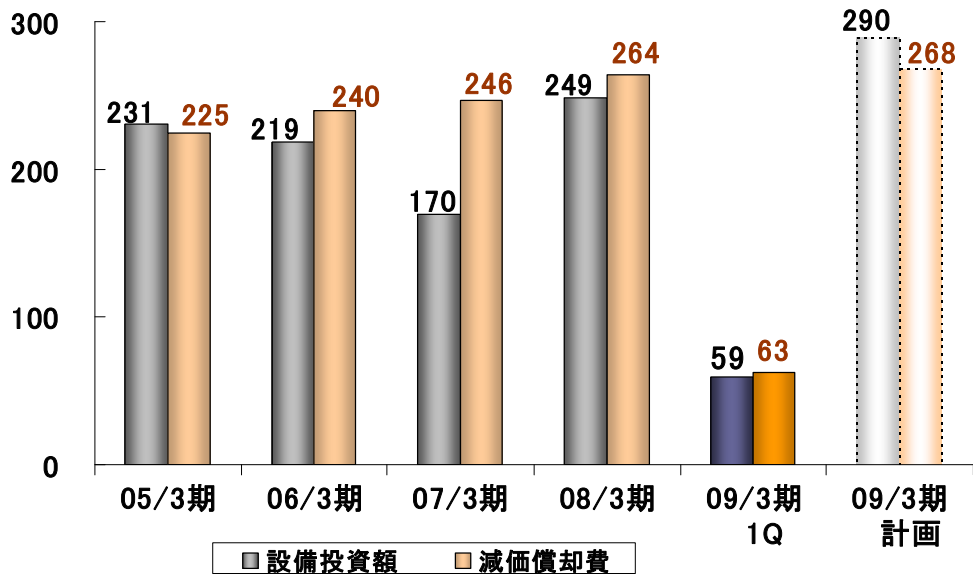
当第1四半期は、前期第4四半期に比べ40億円増加しました。これは、為替影響による16億円の増加と、第2四半期以降の欧米の新学期シーズンやクリスマス商戦向け生産需要のための在庫積み増しによるものです。



当第1四半期末におけるネット有利子負債は1,095億円と、前期末から1億円の減少となりました。これは季節要因として、夏のボーナス支払いによりフリーキャッシュフローが少なかったことに加え、配当金の支払いによる現預金の支出要因があったものの、有利子負債の削減努力を推し進めた結果によるものです。今期はネット有利子負債残高1,000億円を達成できるよう、削減努力を続けます。

## 年推移 設備投資額・減価償却費

(億円)



※09/3期よりリース会計処理変更に伴い、ファイナンス・リース資産を計上しています。

2008年7月31日

10



設備投資額は、通期予想290億円に対し、当第1四半期は59億円でした。主な投資として、ボールベアリングやモーター製品などの増産投資などがありました。  
減価償却費は、通期予想268億円に対し、当第1四半期は63億円でした。

# 業績見通し

当初見込みは変更致しません

(百万円)	2008年3月期	2009年3月期	2009年3月期計画			
	通期	1Q	上半期	上半期進捗率 1Q/上半期	通期	前期比
売上高	334,431	74,041	162,000	46%	330,000	-1.3%
営業利益	30,762	5,083	15,400	33%	32,000	+4.0%
経常利益	27,691	4,685	14,100	33%	29,500	+6.5%
税引前利益	25,254	4,057	13,500	30%	28,500	+12.9%
純利益	16,303	2,635	8,100	33%	17,000	+4.3%
一株当たり 純利益(円)	40.86	6.60	20.30	33%	42.61	+4.3%

為替レート	08/3期	09/3期想定	備考
US\$	115.29円	105.00円	( )内はタイ中央銀行発表オンショア・レート。 タイの短期資本流入規制は、2008年3月に撤廃された ため、これ以後、オンショア・レートとオフショア・レート との大きな乖離は存在しなくなりました。
ユーロ	162.18円	163.00円	
タイバーツ	3.70円 (3.39円)	3.40円	
人民元	15.40円	14.90円	

2008年7月31日

11



今期の業績予想は変更しません。  
為替変動、HDD市場の在庫調整の影響、人件費などの工場経費の上昇に対してコスト削減が追いつかず、当第1四半期は計画を下回りました。今後は今まで以上のコスト削減努力を推し進める一方、今後見込まれる生産性向上でカバーできない原材料高騰分については、極力価格転嫁を行い、今期見込みの達成に向け鋭意努力していきます。

## タイのボールベアリング新工場

### ◆ミニチュア・ボールベアリングの成長

→引き続き、中期的には年率5%以上の数量成長を見込む

### ◆省エネ省資源の切削工程専用工場を新設(2008年5月完成)

◆業界最高の品質水準とコスト競争力の強化を目指して

- ◆エネルギー多消費型の切削工程を集約
  - 新工場への集約と、より効率的な空調などにより、年間電力使用量の4割削減(当社既存工場比較)を目指す
  - 切削油回収効率化や、水資源の再利用強化により、省資源化を更に進める
  - 次の海外生産拠点拡大が容易に

- ◆生産能力: 完成品ベースで当初1千万個/月
  - 最終的には3千万個/月を見込む



2008年7月31日

12



最後に、5月に建物が完成しましたタイのボールベアリング新工場についてご紹介したいと思います。

ミニチュア・ボールベアリング市場は、世界景気の減速が心配される中でも着実に需要が伸びており、昨年度以降を見ても、四半期ごとに外部販売数量が伸びています。これは、ファンモーターを使用する電子機器などの伸び、ピボットアッセンブリーを使用するHDDの伸び、小型モーターの使用増加につながる自動車の電子化の進展などの要因が背景となっています。

その需要に応えるべく、また、業界最高の品質水準とコスト競争力の更なる強化を目指して、タイのバンパイン工場に、切削工程専用工場を新設しました。この工場は、これまでの一貫生産方式ではなく、エネルギー多消費型の切削工程を集約した工場です。新工場への集約と、建物全体を見直した、より効率的な空調関連システムの採用により、当社既存工場比較で電力使用量の4割削減が可能になると見えています。また、切削油回収の効率化や水資源の再利用強化により、省資源化を更に進めることが出来ます。

現在、既存工場からの生産機械の移転を順次進めており、当初は完成品ベースで月1,000万個の生産規模で操業を行います。最終的には、月3,000万個の生産規模を見込んでいます。

# ミネベア株式会社

## 決算説明会

<http://www.minebea.co.jp/>

上記説明会で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。

実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。本資料に掲載のあらゆる情報はミネベア株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。